

ホウ素入り肥料を過用すると、葉縁褐変症状が発生し激しい場合は枯死するので、症状が見られた圃場では次作のホウ素施用は控えるようにする。

5. 手入れ砂による品質改善

砂地畑は高品質かんしょの生産に適しているが、連作が長くなり土壌が悪化するときれいな紡錘形とならず、表面が凹凸で丸型や細長いものが多くなる。皮色の赤味や光沢はうすれ黄味や褐色味が強くなる。また肥大が悪くつるぼけしやすくなる。

手入れ砂により、微量要素等養分補給、化学性のバランス回復、窒素吸収抑制によるづるばけの防止、排水性の改善、地温上昇による早期肥大促進、砂の膨軟性がよくなり指を入れて掘る探り掘りが楽になる等々の効果が大きい。そのためこの産地の生産性は手入れ砂により支えられてきたと考えられている。

手入れ砂は麦が作られていた頃には微量要素補給のため手でふる程度に行っていたが、昭和40年代頃からかんしょ、大根の付加価値向上とともにダンプカーで入れるようになり、その量は次第に多くなっていった。

手入れ砂は海砂で中粒質、ヘドロを含まず、貝がらが多くなく、青緑色を帯びた、塩分の少ないものが適性が高い。吉野川河口付近から鳴門市沿岸へかけての海砂はこれら条件にてらし最適である。

砂地畑におけるかんしょの高品質栽培技術は複雑微妙なものがある。現在では海岸保全上、原則として海砂の採取は禁止されているため手入れ砂は入手困難となっており、手入れ砂の確保対策や代替技術確立が求められている。

今後の技術対応としては、畑表土の洗い砂による微細粒子除去対策の検討がある。また地域ぐるみの灌水施設の設置と暗渠による水分管理や心土破碎等による物理性改善及び的確な化学性改善等を組合せた総合対策の確立が必要であると考えられる。